

平成26年度 赤穂市立塩屋小学校 学校関係者評価

学校名 赤穂市立塩屋小学校

1 本年度の学校経営方針

(1) 教育目標

ともに学び、仲良く遊ぶ児童を育てる ～支え合い、学び合い、希望を高く～

(2) 校 訓

【明く】

【清く】

【強く】

めざす学校像

- 1 保護者・地域とともに歩む学校
- 2 安全・安心の保障された学校

めざす児童像

- 1 あいさつができ、友とわかりあう子
- 2 真剣なまなざしで学習にのぞむ子

めざす授業像

- 1 児童全員が主体的に参加する授業
- 2 児童同士の関わり合い、学び合いがある

求める教師像

- 1 とことん児童に関わり続ける教師
- 2 常に授業の向上を目指す教師

(3) 学校経営の基盤とするもの

- ・人権尊重の精神に立つ学校づくり
- ・全ての子への学力保障
- ・健康・安全・安心の確立された学校づくり
- ・保護者・地域と共に歩む学校づくり
- ・職員の育成

(4) 重点課題

① 保護者・地域と連携した教育の推進

- ・保護者・地域住民の学校運営への参画
- ・学習成果の発信
- ・学校評価、保護者アンケートの教育活動への反映
- ・ふるさと意識の醸成

③ 配慮を要する児童への対応

- ・児童の背景の理解
- ・実態に応じた支援・指導の計画
- ・保護者との意思疎通
- ・常に「気にかけて」「目をかける」意識

⑤ 児童の規範意識・マナーの向上

- ・きまりを守ろうとする意識
- ・公共物や施設を大切にできる態度
- ・相手を大切にしたい言葉遣い
- ・行儀・礼儀の指導

⑦ いじめ・不登校の解消

- ・第三者委員会最終提言の実践
- ・未然防止のための取組
- ・早期発見・早期対応・組織としての対応
- ・家庭との連携指導
- ・情報モラル教育の推進

② 授業力の向上

- ・授業のスタンダード化(めあて・まとめ)
- ・全員が意欲をもって参加できる授業づくり
- ・学び合いのある授業づくり
- ・児童主体の授業づくり

④ 特別支援教育の充実

- ・職員の理解と実践力の向上
- ・校内指導・支援体制の確立
- ・関係機関との連携による支援体制と支援方法の研究・実践
- ・保護者・地域への啓発

⑥ 危機管理意識・管理体制の管理

- ・安全配慮義務の徹底
- ・防災体制・防災意識
- ・地域安全体制の確立
- ・アレルギーへの理解と対応の体制
- ・対応マニュアルの見直し

⑧ 学校組織力の向上・学校業務改善

- ・教育目標・重点課題の共有化
- ・学校評価を生かした学校運営
- ・職員の協働体制、成果の共有化
- ・学校業務の工夫改善
- (子どもと向き合う時間の確保、メンタルヘルスの保持・増進)

【総合的な学校関係者評価】

- 教育目標に向かって、学校全体で着実に取り組んでいると感じている。平成27年度からコミュニティ・スクールが本格実施となるが、子どもたちに対する保護者・地域の願いと学校教育目標とが融合するようお願いしたい。
- 参観日に出席して各教室を回り児童の授業態度を見せてもらっているが、各先生方が工夫を凝らして授業をされており、児童の授業態度も良好である。
- 校長・教頭のリーダーシップはよくとれており、先生同士のチームワークも良好であると感じる。
- 先生方と地域の危機管理に対する意識が高まっているように感じた。
- 地域住民に声をかけ、ボランティア活動を推進していることはよいことである。
- 保護者・地域の方々とのふれあいということで、親子美化活動・オープンスクールの実施や警察音楽隊の音楽鑑賞などが行われたことは大変意義があることだと思う。
- 課題が多すぎて欲張っているように感じる。本当に必要なことだけに絞り、目標を簡素化してはどうだろうか。
- 児童のあいさつ(運動)は、学校の中と外との差が大きいように感じる。(学校外であいさつをあまりしない)
- 交通ルールの徹底を図る。(児童も保護者も教職員も)
- コミュニティスクールの質の向上が求められている。27年度に向けてPTCAのありかたをもう一度再考し、意識の共有化を図る必要があると思う。
- 赤穂市高齢者大学塩屋校の生徒さんをゲストティーチャーに招く方法もある。
- 地域住民のアンケート結果を反映してほしい。(学校行事を土・日・祝日にするなど)

平成26年度 赤穂市立塩屋小学校 学校関係者評価

【学校関係者評価】

◎:適切である ○:ほぼ適切である △:あまり適切ではない ×:適切ではない

2 自己評価結果 (A~D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

観点 (実践の柱)	評価項目(学校・教師の取組)		評価資料等	達成状況	改善の方策
	項目	評価指標及び目標値(期待される姿)			
①保護者・地域との連携	項目	児童の主体的な学びを尊重し、生涯学習社会を見据えた学校づくりに努めることができたか	児童アンケート 入学式 学級懇談会	A	<ul style="list-style-type: none"> 連絡を家の人に見せない、提出物、家庭学習が不十分な児童が決まっているので、学級通信や週案を配付している学級もある。提出物の揃いにくい児童については、保護者との連絡を密にして協力を促していく。 通信を出し、保護者へ学習内容を伝え、宿題で家庭・学園からのコメントをいただくなど連携を図った。また、「しおっ子応援団」を活用して、地域の方の協力を得ることができた。 自主学习ノートづくりなど、家庭での学習習慣を確立させ学力向上に努める。 「学校に来ることが楽しい」と答えた児童がどの学年においても大変高い数値である。全体では96%を越えているが、「いいえ」と答えている児童にも目を向け、声かけや関わりを増やしていく必要がある。
	指標	学校に来ることが楽しいか	保護者アンケート		
	項目	各通信・オープンスクール・ホームページなどで情報を提供したり、保護者からの相談を受けたりすることができる開かれた学校づくりに努めたか	児童アンケート ホームページ		
	指標	学校からの連絡を家の人に見せることができたか	保護者アンケート		
	項目	学びの機会を充実するとともに、家庭と連携して学習習慣を身につけるように工夫したか	児童アンケート 学級懇談会 個別懇談会		
	指標	家庭学習をして、提出物を出すことができたか	保護者アンケート		
②確かな学力	項目	児童の実態に応じた学習課題を設定し、意欲を持って、自ら学び、自ら考える力を育成するように努めたか	児童アンケート 学級懇談会	A	<ul style="list-style-type: none"> 児童が互いに支え合い、認め合える、分らないことが伝えられる雰囲気づくりを心がける。 自主学習の仕方やコツを学年で指導し、復習する力やまとめる力がついてきている。 学年が上がり、学習内容が難しいと感じる児童が増えてきたように思う。勉強が分かることが学習意欲向上につながるので、まず、児童がどこでつまづいているか実態を把握をし、児童の興味・関心に合わせた教材を工夫し、スモールステップで達成感を味わわせながら意欲的に学習に取り組めるようにする。
	指標	楽しく学習し、勉強がわかりやすかったか	保護者アンケート		
	項目	基礎・基本的な内容を明確にし、評価の基準を定め、指導方法を工夫改善して理解の徹底を図ったか	児童アンケート 学力テスト等		
	指標	学習したことをまとめたり、発表したりできたか	保護者アンケート		
	項目	家庭学習の定着及び充実を図ることができたか	児童アンケート		
	指標	意欲的に家庭学習に取り組むことができたか	保護者アンケート		
③健やかな体	項目	「早寝・早起き・朝ごはん運動」を推進し、子ども達に声かけ等の働きかけをすることができたか	児童アンケート 学級懇談会	B	<ul style="list-style-type: none"> 給食・遊びについて学級でルールを設定し、声かけを継続して行う。(学級指導) 児童アンケートにおいて「健やかな体＝生活リズム」に関する項目が大変低い数値である。高学年は就寝時間が遅くなり始める年齢であるので、長期休業前に再度指導を行うことと、養護教諭と連携しながら学活等の時間を利用し、指導を行うようにする。 「休み時間は外で元気に遊ぶことができたか」の項目で、高学年は非常に数値が低い。寒くなる2学期は体育や業間マラソン以外は外へ行かない児童も見受けられる。外で教師も一緒に遊ぶ機会を持ったり、声かけの必要性を強く感じる。
	指標	目標を決めて、「早寝・早起き・朝ごはん運動」に取り組むことができたか	保護者アンケート		
	項目	望ましい食習慣を養う一助となるよう、給食の時間の充実を図ることができたか	児童アンケート 保護者アンケート		
	指標	好き嫌いをせず、給食を食べることができたか。			
	項目	一人一人の体力・運動能力の向上を目指し、外遊びを奨励したり、体育の時間の充実を図ることができたか	児童アンケート 個別の指導計画		
	指標	休み時間は外で元気に遊ぶことができたか	保護者アンケート		

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と次年度具体的改善方法
◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> 身近に小学生がいる地域住民は、学年・学校の行事等についてある程度は知っていると思うが、そういう繋がりのない方々にも学校が発信している「しおっ子だより」やホームページを活用して、地域内への発信に努めていただければよいと感じる。 「しおっ子応援クラブ」をもう一段階レベルアップし、地域との連携の強化を図ってほしい。 次年度、オープンスクールを分散させて、保護者・地域の人々との関わりが増えていくのはよいと思う。一方で、開かれた学校になって不審者が学校に来ないかという不安がある。
◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> 学年・学級の児童の互いの協力(学び合い)により学力の向上を図る。 「楽しく学習し、勉強が分かりやすかった」児童が増えたのはとても良かった。次年度も児童が関心を持つ授業をしていただき、さらに意欲が上がり学力が向上してほしい。
○	○	<ul style="list-style-type: none"> 「休み時間は外で元気に遊ぶことができたか」の項で、改善策の一つとして、各学年・クラス対抗をしてはどうか。月別・年間の成績を目に見える形で表示するとよい刺激になるのではないかと思う。 子どもたちの体づくりは心づくりにも繋がるので、「早寝・早起き・朝ごはん」運動を強化してほしい。 給食を通して、家で食べられなかったものが食べられるようになることも多いので、一口でも挑戦してほしい。でも、給食を全部食べなければいけないという強制的なものになると、それが負担になってくる子どもも出てくるので、そのあたりに難しさを感じる。給食をしっかり食べて昼休みは元気に外で遊ぶという流れになってほしい。

(A～D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

◎:適切である ○:ほぼ適切である △:あまり適切ではない ×:適切ではない

観点 (実践の柱)	評価項目(学校・教師の取組)		評価資料等	達成状況	改善の方策
	項目	指標			
④豊かな心	項目	児童一人一人の実態を的確に捉え、全職員で共通理解して適切な指導を行うことができたか	児童アンケート 保護者アンケート	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 終わりの会などで友だちのよさやがんばりを見つけて発表する機会を設ける。教師もよいところを見つけて子ども達に広める。 ○ 児童への声かけを増やし、気軽に相談できる雰囲気づくりに努める。 ○ 道徳の授業を充実させ、授業で学んだことを生活で生かせるようにしていく。 ○ 保護者アンケートにおいて「お子様は、自分を大切にしている心や、友だちを思いやる心が育っていると思われませんか」の項で、「そう思う」「少し思う」が95%を越えている。上記のような教師の関わりを継続して取り組んできた結果が少しずつ現れているのではないかとと思われる。今後も引き続き取り組んでいく。
	指標	困ったことがあったら相談することができたか			
	項目	人権教育を全教育活動に位置づけ、差別や偏見を解消するため実践力を培うよう努めたか	児童アンケート 保護者アンケート		
	指標	友達のよさやがんばりを見つることができたか			
	項目	全ての教育活動の中で道徳性を培うように配慮し、道徳的実践力を育成するように努めたか	児童アンケート 保護者アンケート		
	指標	道徳の時間に学んだ事を生活で活かそうとしたか			
	項目	学級活動や学校行事に進んで参加し、学級や学校の諸問題の解決に努めるように指導したか	児童アンケート 運動会・音楽会		
	指標	協力して活動したり、行事に参加したりしたか	保護者アンケート		
⑤生徒指導	項目	児童の実態を的確に把握し、生徒指導上の問題行動等を未然に防ぐよう働きかけるとともに、問題行動発生時には、適切に対応できたか	児童アンケート 学級懇談会	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者アンケートにおいて「お子様は、学校の行事や体験活動を通して、豊かな人間性や社会性が育ちつつあると思われませんか」の項で、「そう思う」「少し思う」が95%を越えているが、反面、児童アンケートにおいて「きまりを守り、正しい行動ができたか」「善悪を判断して行動しようとしたか」の項目で、6年生の数値が非常に低い。校外の決まりが守れなかったことに起因しているが、校内生活に於いて校外生活の規範意識が薄い。決まりを「守らせる」「生徒指導」「守るもの」という考えのもと行う必要があるのではないか。 ○ 全校朝会や学年集会などで問題行動が改善されたような(例:1学期の公園のごみ拾い)事例を取り上げ褒めていくことで、正しい行動が広がっていく。全職員共通理解のもと取り組んでいく。 ○ 不登校対応マニュアルに使い、早期発見後できるだけ早くケース会議等に繋ぐことができるとよいのではないかと。→校内体制の更なる整備が必要
	指標	きまりを守り、正しい行動ができたか	保護者アンケート		
	項目	不登校に係る諸問題について、未然防止、早期発見、早期対応するとともに、早期解消に向け、保護者等との連絡を密にしながら、計画的に支援・指導ができたか	児童アンケート 保護者アンケート		
	指標	前向きで規則正しい生活を送れたか			
	項目	道徳性の向上と規範意識の醸成に向けて、計画的に指導できたか	児童アンケート 保護者アンケート		
	指標	善悪を判断して行動しようとしたか			
⑥児童をとりまく環境の整備	項目	危険箇所、危険物の除去・改修等に心がけ、清潔で衛生的な環境整備に努めたか	児童アンケート 保護者アンケート	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 継続的な呼びかけが「言葉遣い」など子どもたちに変化をもたらしたのは確かであったので、廊下歩行、挨拶、トイレのスリッパ、言葉遣いなど、引き続き教職員が共通理解して指導していく必要がある。 ○ 本年度も、地区の民生児童委員、主任児童委員および青少年育成推進委員会等の協力のもと、学校・家庭・地域のネットワーク強化に努めた結果、問題行動の未然防止、再発防止に繋がっている。今後も関係機関との連携の強化に努める。 ○ 保護者アンケートにおいて「学校・家庭・地域が連携して、教育活動が進められていると思いませんか」の項で、「そう思う」「少し思う」が90%を越えている反面、「あまり思わない」「思わない」が10%強の数値である。学校から家庭に対して、また地域に対して更なる連携強化の呼びかけが必要であると感じる。
	指標	安全に心がけた生活でできたか			
	項目	教育活動を充実させるための教育的環境の整備に配慮し、研修内容を実践に活かし取り組んだか	児童アンケート 保護者アンケート		
	指標	掃除をしたり、整理整頓をしたりできたか			
	項目	友達を尊重した呼び方をし、相手への嘲笑や侮辱、厳しい非難の言葉を解消するよう指導できたか	児童アンケート 保護者アンケート		
	指標	友達を大切にする呼び方をし、優しい気持ちで接することができたか			

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と次年度具体的改善方法
◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者は子どものよいところをしつかり褒めて、弱点を少しでもカバーできるように、子どもの思いを共有していく。 ・友だちのよいところを見つける、自分のよいところを友だちに見つけてもらうというのは、とてもうれしいことだと思う。次年度も続けていってほしい。
○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・地域・家庭が一体となって問題行動に対する指導をしていく必要がある。三者が問題行動を共有し、声をかけ指導をしていく。 ・大人が見て、問題行動だと考えていることが、子ども自身ではそこまで悪いと思っていないときもある。(校区外に出たこと等)そのあたりを指導していく難しさを感じる。
○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・第一に家庭において、一人の人間として守らなければならないことを教え、そして学校でしか学べないこともあると思うので、先生方には是非ともがんばってほしい。 ・言葉の言い回しによって仲のよい友だちの中で、子ども知らぬうちに傷つけているときもあるので、先生方や目の人だけに言葉遣いを気をつけるのではなく、友だち同士でも気をつけてほしい。

【自己評価における特記事項】

※達成状況の評価は、下記のA・B・C・Dで自己点検を行い、ポイントに換算し、教職員数で平均している。

A:達成した…4ポイント B:ほぼ達成した…3ポイント C:あまり達成できなかった…2ポイント D:達成できなかった…1ポイント

※職務が異なることから、評価項目がすべてあてはまるとは限らない。また、最終的に「児童アンケート」「保護者アンケート」を考慮した上で、達成状況の評価を決定している。

【項目以外の点で次年度の課題や具体的改善方法】

○ 会議(学年等)や職員の退勤時間が遅くなり気味である。教師にゆとりがないと児童の落ち着いた生活にも影響があるであろう。突発的な生活指導上の問題等は仕方がないが、時間に余裕を持たせた学習計画や時間を守る意識を高め、勤務の効率化に努める。

○ 学校行事の精選。じっくりと学習に取り組む時間の確保。